



2021年12月、吉川晃弘くん榎澤眞穂さんが「バーチャルホノルルマラソンチャレンジ」に参加しました。去年二人はホノルルマラソン10kmの部にリモートで参加して見事完走。今年はバーチャル参加ですが12月の1ヶ月の間に累積で42.195Kmを走るクラスにエントリーして見事に完走しました。2021年12月1日の夜18時(株)大木家に勤務する眞穂さんのお仕事終わりに豊橋駅前に集合して、初日3Kmほどを一緒に走り、それぞれ各自がコツコツと距離を積み上げました。マラソンの練習がある日はチームのみんなに励まされながら今回のチャレンジも見事にやりきりました。二人とも42.195Kmのフルマラソンの距離なんて、途方もなく遠いゴールだと感じていたそうです。でも日々距離を積み上げる中で目標距離の半分以上を超えようとする手応えも感じていました。そして今回も車いすの調整や身体のマッサージなど仲間のサポートを力

に変えて頑張りました。ゴール後の二人は前年よりさらにたくましく、姿勢も良くなり笑顔の中に自信を感じました。その後の二人の変化はさらに積極的なものでした。吉川くんはそれまでの家族に押しもらうための車いすから自分で操作する車いすに変更。以前よりも軽く操作出来るようKファクトリーの前田さんに細かな微調整をもらい、日々の練習を続けています。また車いすに取り付けるタイプの電動アシストも手に入れ豊橋動物園に出かけて見学検証をして自分のYouTubeで紹介したりしています。眞穂さんは自分の身体の不調改善と家族の健康を考える機会があり、身体を温めて体調を整える温活の勉強をし資格を取得。今は好きな漢字の検定1級を取得したいと勉強中です。二人とも現地ホノルルでのマラソン参加を目標にしている事は変わらずですが、それ以外にも興味のある事

やってみたい事にチャレンジしています。当初ホノルルマラソンに参加するという目標のために500mを歩く事も大変だった二人ですがチャレンジを続ける中で自分の可能性を広げる行動を起こすようになりました。二人の挑戦は2020年2月にスタートしました。世の中全体がコロナ禍の不安と不自由さを感じている中でした。振り返ってみると、できないと思っていた事を家族や周囲の後押しの中、不安はありながらもやってみようという気持ちが前に進む原動力になっていたのだと思います。動き出した新たな二人の行く道を応援していきたいと思います。そして自身も可能性を広げて進んでいきたいです。(文責・宮副幸子)

ごあいさつ「車いすを楽しむ会」会長 鈴木 より子

夏が来ました! 蝉の大合唱が聞こえてきます。去年の忘年会”とまりん”againです。海の幸と熱燗、やはり美味しい! 昼間のお酒はご褒美のような気がします。得した気分です。そして今年の遠足は、トヨタ博物館。お天気にも恵まれ新緑がとても綺麗でした。トヨタ車だけではなく世界の車が見れました。高級な富裕続の車から大量生産になり庶民の足になった車の数々。昔、主人と乗っていた車もありちょっと一人で余韻に浸っていました。専属ガイドさんの説明、気遣いも素晴しくより楽しめました。

号待ちの運転手の方が「お手伝いしましょうか」その位置から・・・? 気持ちが嬉しく、大丈夫です有難うございますと大声で返しました。私の前に急に車が停まり上品な女性の方が出て来て「母も車いすです」お手伝いしましょうか等、又、買物をしてい時まだ日本に来て間もない男性からジェスチャーで「取りましようか?」そしてレジでは私の前に並んでいたのです。私に気づくや否や私の膝の上からかごを取り、レジまでもって行ってお会計を先にゆずってくれました。”ジェントルマン”です。心が暖まります。外に出ていくと色々な出会いがあり素敵な事が起こります。色んな方に助けられて生きているんだと感じます。

最近カルミアのあたりでは車いすの方をよく見かけます。しかし駅から離れるとなかなか出会う事はありません。便がよくてバリアフリーのところには皆さん外出しているのかなと思います。”心のバリアフリー”は確実に広まっています。嬉しいです。次回皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。



車いすを楽しむ会イベントのお知らせ

楽しい定例会 新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、延期/中止の可能性もあります。

■日 時/ 2021年10月22日(金曜日) 午後6時30分～ ■会 場/ L'AMBRE ランブル
豊橋市向山町中畑38 古田ビル1F

車いすを楽しむ会ホームページができました。法人会員様、協賛・バナー広告主様を募集しています。

車いすを楽しむ会の趣旨をお汲み取り頂き、法人会員様(年間:6,000円)、協賛バナー広告主様(年間6,000円)を募集しております。下記掲載の各種連絡先までご連絡下さい。詳しい資料を送付させていただきます。
「心のバリアフリー」を社内外で実現すべく、障がい者の社会参加を進めていく地域社会づくりに参加されませんか? よろしくお願い致します。



<http://coolmice55.net>

希車倶楽部 お届けします!

車いすを楽しむ会は年4回、会報誌「希車倶楽部」発行しています。楽しむ会の活動報告や、バリアフリーに関する情報などを紹介しています。「読みたい」「店舗に置きたい」などのご希望がありましたら、事務局までお知らせ下さい。

事務局だより

入会のご案内 年会費 1,500円

「車いすを楽しむ会」では、随時会員を募集しています。会の趣旨にご賛同いただける方であれば、障がいの有無、程度等関係なく、どなたでも歓迎致します。お申し込み、お問い合わせは下記の連絡先までお願い致します。

表記について

「車いすを楽しむ会」では、皆様にお配りする印刷物では「車いす」と「障がい(者)」で表記を統一しております。ご理解ご了承いただきますようお願い致します。

各種連絡先

- 〒440-0826 愛知県豊橋市大井町134-1(有) ステップワールド 宮副
- TEL.FAX (0532) 39-3004 ステップワールド宮副まで ● E-mail・info@coolmice55.net

掲載中の文章・写真の無断転載を一切禁じます。規約上事務局は会長宅となっておりますが、事務処理の都合上連絡先をステップワールドとさせて頂いております。



新型コロナウイルスの感染も収まり始め、会員の皆さんも外出する機会が少しずつ増えてきたことと思います。去る6月14日、車いすを楽しむ会の令和3年度定時総会が行われました。場所はさくらピア(身障会館)で、今年は久しぶりに平日の晩の開催となりました。あいにくの雨でしたが、お陰様で12人の会員の皆さんに出席いただきました。2年前は初の書面開催を行うなど、開くこと自体にも四苦八苦していたことを思うと、改めて日常が戻りつつあるなど実感しました。

開会に先立ち、まず今年の春に亡くなられた初代会長 小杉健次さんに黙とうを捧げました。四半世紀を超える楽しむ会の歴史を開いていただいた小杉さんに、出席者全員で感謝しました。

総会の部では、まず昨年度の決算と活動実績、本年度の予算と活動計画を報告しました。報告の中では特に2つの点が強調されました。1つ目は、昨年度に障がい者・健常者が小中学校・高校のPTA連合会などへ一緒に出向いて行った、心のバリアフリーについての講演を本年度も積極的に行うことです。2つ目は、ホームページのリニューアルにより対外的な発信をどんどんしていこうという点です。障害のある・無しを越えて、自分のやりたい事へのチャレンジを行い、それを応援していくという活動の流れができつつあることを実感しました。

今年は役員改選期に当たるの



で、改めて鈴木より子会長をはじめ現理事が全員再任されました。若い会員の力も得ながら更に心のバリアフリーを推進することを、理事一同で心に期しました。

企画の部では、『さらに前へ!〜ホノルルマラソンチャレンジを通じて』と題して、昨年・一昨年とホノルルオンラインマラソン障がい者の部に挑戦し見事に完走した、会員の吉川昭宏さん・榎澤真穂さんのお話を聴きました。

吉川さんは先天性の小児まひで、右手の握力が極端に少なく、歩くのは杖か車いす頼みです。中学2年生の時に病気を患い学校を休みがちになった頃、テレビで『笑点』を見ることがとても楽しみになり、噺家の林家木久蔵(現 林家木久扇)さんに憧れたそうです。いつもユーモアと笑顔にあふれる吉川さんの原点なのでしょう。

ホノルルマラソンへの挑戦に向けての大きな課題は、握力の強化でした。そのため、生米を握るといった練習を毎日100回行ったそうです。(サボっていると、トレーナーである宮副さんに厳しく指導されてきたそうです!)車いす走行の練習はハードでしたが、外出が多くなって知り合いの人が増え、励まされることが増えたのは嬉しいことだそうです。

榎澤さんも先天性の小児まひで、2歳の時に脳梗塞を患うなど、脚を支える装具なしでは歩けない身体です。双子の妹さん(健常者)がいて、体を動かす自由を制約されても



性格は負けず嫌い。でも、ままならない自分の身体状況を思うと、自分のやりたい事を人にはなかなか言い出しづらかったそうです。そんな榎澤さんですが、特別支援学校時代にはパラリンピックでも話題になった『ポッチャ』が大好きになり、本格的な道具のセットを持つまでになりました。

ホノルルマラソンへの準備では、負けず嫌いで自主練をかなり頑張ったそうですが、時に頑張り過ぎて、合同練習前にバテてしまうこともしばしば。練習期間中にお母さんが脳出血を患った時、リハビリしてあげるために「温活士」の資格も取るなど、正に「頑張り屋」そのものです。

オンラインマラソンの挑戦結果は、1年目に10キロ・2年目には何と42.195キロを共に完走!この経験談は、昨年のおつじが丘小学校の福祉教室でお2人自身が語ってくれました。

2人とも「応援してくれた皆さんののおかげで完走できました。」と言います。しかし、楽しむ会顧問の原田さんをはじめ周りの皆は『2人が頑張ったから応援したんだよ。』と、口をそろえていってます。正に、『車いすを楽しむ会』が目指す心のバリアフリーそのものだと思います。

因みに、次の吉川さんの挑戦は『バンジージャンプ』、榎澤さんの挑戦は『漢字検定1級の取得』だそうです。…現地ホノルルでのマラソンチャレンジ?渡航可能になったら、もちろんですね!

(文責・青木良浩)



5月8日日曜日朝から青空の広がる。爽やかな五月晴れの日になりました。新型コロナウイルスの影響で中止していた春の恒例行事楽しい遠足が3年ぶりに出来ました。

場所は愛知県長久手にあるトヨタ博物館。トヨタ自動車を作った自動車の歴史そして自動車にまつわる文化の発展を展示している博物館です。参加者は12名、いつもは公共交通機関も利用して集合するのですが、今回は全員が自動車にて向かいました。

今回の企画を考えた時に車いすを楽しむ会で以前に、ジャパントクシーの試乗と意見交換会で愛知トヨタの方達との交流があったことを思い出して愛知トヨタの岡田所長さんに連絡をとり、トヨタ博物館の遠足をどんな風に楽しんだら良いか相談させていただいたところ、団体予約でガイド案内1時間があるとのことでした。事前に車いす利用者の障害者手帳の種類や等級氏名年齢をお知らせをしていたのでスムーズに入館できました。まず全員にイヤホンが配られ説明が聞きやすくなりました。トヨタ自動車の最初の観音開きのクラウンのレプリカが展示してあり、当時のエンブレムは「トヨタ」ではなく「豊田」でした。そしてタイヤのホイールにも「TOYODA」と入っていてその当時の車を制作した人たちの思いが伝わってきて最初から感動しました。

次は2階にある世界の自動車の歴史を紹介するコーナーのなんと



ゴージャスな事!赤や緑や黄色の鮮やかなで綺麗な色とゴールドの組み合わせの塗装ピカピカに磨き上げられ輝いていました。鮮やかな色はもちろん塗装し直してはいるが当時のものと同じ色とのことでした。ため息の出るようなクラシックカーの世界を堪能して、次は3階の現代の世界中の車の変遷を辿るコーナーへ。こちらはみなが憧れたカッコいいポルシェやベンツはもちろんトヨタだけでなく日産いすゞ三菱マツダの1970年代や1980年代など当時を代表する車たちが展示されていてもう大コーン(特に50代は)最後はミライこれまでの自動車作りの歩み未来への思いを話してください楽しく充実した時間になりました。

ガイドの石山さんはまだ2年目の方ですが全ての案内を暗記しているのはもちろん私たちの様子を気にかけながら落ち着いてお話をしてくださってとても安心して楽しめました。

その後は少し早めの昼食のためレストランへランチをいただきながら



感想を話したりそれぞれのテーブルごとそれぞれの話題に花を咲かせました。

そして午後からは文化産業館へ。こちらでは車に関する文化の紹介です。プラモデルやミニカー車のパンフレットやポスター切手エンブレム車に関係するレコードCD映画や本など車は移動手段だけでなく私たちの生活をその存在が演出したり楽しませてくれているものだったんだと気付かされました。

最後に集合写真を撮影する時にどなたかスタッフの方をお願いしようとしたらガイドの石山さんがすぐに気づいてきてくれて最初から最後までやさしい心遣いに感謝して帰宅いたしました。

私個人の感想ですが博物館の中で世界の車づくりに関わった人たちに思いを馳せる豊かな時間と大袈裟かもですが感謝の思いになりました。

そして最初に車を作った人たちが車いすの人たちが改造して車を運転している姿を見てビックリするのかな?とかいやむしろ当たり前だろっていうのかな、などと想像してしまいました。

(文責・宮副幸子)

